日本女子大学　社会連携教育センター　JWU 子育てサイエンス・ラボ
ニューズレター
ゆりのき　No18
ゆりのき HP
2024 年 9 月 13 日発行

JWU 子育てサイエンス・ラボが発行するニューズレター「ゆりのき」は子育てにまつわる様々なトピックやお気軽に参加できる「子育てサイエンス・カフェ」のご案内を掲載しています。以前の「ゆりのき」も公式 HP で閲覧できます

＝＝＝＝＝＝第 19 回子育てサイエンス・カフェ報告（7 月 27 日実施）＝＝＝＝＝＝

「子どもの話に耳を傾ける　ー子どもに自信をもって関わるために　臨床心理学の立場から言えることー」

「子どもの話を聴くことが大切」という言葉はよく耳にしますし、異論がある人は少ないと思います。しかし、「ただ聴いているだけでいいの？」「アドバイスしたり、ダメって言ってはいけないの？」など、いろいろな疑問を感じる人もいると思います。

「子どもの話を聴く」上で重要なのは、子どもの気持ちになって話を聴くことです。もともと赤ん坊は、生まれる前は当然ですが、生まれてからもしばらく一人では生きられません。常に親や養育者が「抱っこ」して、「お腹減ったのかな？」「おむつが気持ち悪いのかな」など赤ん坊の気持ちを想像して、お世話をする必要があります。こうした関わりを、専門用語では子どもへの「同一化」と言います。

つまり、「ただ聴く」だけではなく、子どもに同一化して話を聴くことが大切だと言えます。このような「同一化」に基づくケアを D.W.Winnicott という小児科医・精神分析家は「抱えること holding」と名付けました。Winnicott は、十分「抱えられた」体験が無い人は、「自分で自分を抱える必要がある」と述べています。そうした人にとっては、「子どもの話に耳を傾ける」ことが難しくて当然です。そうした場合は、大人であっても、まず自分が誰かに「心ゆくまで話を聴いてもらう」ことが不可欠と言えるでしょう。

もう一つ、「子どもにダメと言ってはいけないの？」という疑問について、道徳と倫理、という概念を例に挙げてお話ししました。美学者の伊藤亜紗は、道徳は「普遍的な善」、倫理は「具体的な状況における『善』とは何かについて悩むこと」と述べています。私たち大人は、子どもを前にして、「ダメ」という言葉で「道徳的に何が正しいか」を教えることが大切です。ただ、「道徳的にはうそをついてはいけない。けれど、身を守るためにはうそをつくことも必要な場面がある」ように、具体的な状況では、道徳が必ずしも通じない場合があります。大人は、道徳的な正しさを振りかざしてしまいがちですが、子どもの置かれた具体的な状況を想像し、一緒に悩むことが必要です。

つまり、「子どもの話に耳を傾ける」上でも、「子どもにダメというべきかどうか倫理的に考える」ためにも、大人は「思い悩むこと」から逃れられません。しかし、一人で思い悩むのはあまりにも辛いものです。「子どもを抱える人」を「抱える人」、それは家族だったり、友人、ご近所さん、子どもの学校のスクールカウンセラーかもしれません。本学、社会連携教育センターは、分室として心理相談室を備えています。心理相談室が、皆さんを「抱える」場としてお役に立てれば本望です。

（人間社会学部心理学科・心理相談室室長
堀江桂吾）

日本女子大学心理相談室

地域の皆様の心の相談を
お受けしています。
ご予約　03-5810-1507
日本女子大学　心理相談室

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝子育て関連 卒論紹介＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

～ 文京区の妊産婦・乳児を守る学生協働型避難所準備に関する卒業論文を建築デザイン学科平田研究室から紹介します ～

（建築デザイン学部建築デザイン学科 教授 平田 京子）

大地震の頻発する時期にわたしたちは生きています。特に関東地方のわたしたちは、いくつもの地震に備え、首都東京を強く支えていく必要があります。つい先日臨時情報が出されていた、南海トラフ沿いの大規模地震（マグニチュード８から９クラス）は、「平常時」においても今後 30 年以内に発生する確率が 70～80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約 80 年が経過していることから切迫性の高い状態といえます（気象庁報道資料より引用）。そして首都直下地震の発生確率も、30 年間で 70%、50 年間で 90%と切迫した状態なのです。

次世代を担う子どもたちは、この高い確率の中を生き抜くスキルを身につけること、そして他者を助ける強さが大切です。社会全体では、これからの大地震についてデータや頭脳を駆使して、被害を少しでも減らすことが必要で、今、わたしたちは防災の主役になる必要があります。自治体に期待しても、ひとりひとりを十分に支援するのはむずかしいからなのですが、ひとりひとりが大地震の被害がどうなるかを深く理解し、事前に準備して、災害後に迅速に復興する対策を考えておくことで、被害を大きく減らすことができるようになります。

その中で当研究室では、住民や自治体といろいろな研究や社会実験を行って、災害からの復旧を迅速にするための方法を探ってきました。そのなかで、学生にとって目に見える形で研究にとりくみやすく、社会も学生を応援してくれているものとして当研究室の中心的研究テーマとなっているのが、大地震が起こると文京区が日本女子大学に設置する「妊産婦・０歳の赤ちゃんのための専用の避難所」の運営をどうするかということです。

文京区では 2011 年の東日本大震災での区職員による被災地の支援経験を活かし、災害時に妊産婦や乳児が避難する母子専用の救護所（避難所）を設置することを、全国に先駆けて、地域防災計画に定めました。日本で初めての母子専用の避難所は、実際の運用経験がなかったのですが、2016 年の熊本地震の際に、文京区長から熊本市長に紹介され、熊本市内で初めて実際に設置されました。ただ住民はそのような避難所があることを事前に知らなかったので、知名度が低く、母子専用の避難所で暮らした人は限定的でした。

発生が危惧される首都直下地震が起きたら、文京区の救護所ではどんな運営がなされるのでしょうか。多数の母子が暮らす本格的な運営は、日本で初めてとなると予想されています。そこで他の自治体等からも多くの関心が集まっているのですが、区が計画した備蓄物資はちゃんと地下に備蓄されているものの、運営をどうするか、どんな準備をすればよいかはまだまだ検討が十分ではありませんでした。そこで 2020

年度の卒論生２名が最初にこのテーマに取り組みました。それ以降、多くの学生が救護所の開設、運営について考察してきました。次第に文京区防災課や大学の防災の窓口である総務課との連携がスタート、2022 年度には２名が「妊産婦・乳児救護所の開設・運営キット」を本格的に完成させ、実際に日本女子大学救護所を担当する文京区職員と大学職員がペアになって、このキット通り実際に訓練し、どうしたら円滑になるかを検証していきました。これに加えて全学の学生は、ボランティアとして避難するお母さんへの案内ビデオの撮影を行ったり、JWU 社会連携科目（２年次以上対象）を通して、救護所でどのように避難者の自立を支援するか、どうやってお母さんたちが助け合いながら連携していくかを模索したりしています。

2023 年度の卒論生 3 名によって、救護所の開設キットだけでなく、運営を始めてからのおむつやミルクの配布手順・準備事項をまとめた開設後の運営キットがまとまりました。災害は平日休日問わず来ますので、365 日、対応するにはどうしたらよいかという時間による人員不足のシミュレーションを行い、開設前から学生ボランティアと協働する形を検討しました。また救護所のしおりも作成、避難者が少しでも安らげるようにいろいろな検討を行いました。まだまだ普通の生活を送るには、救護所の物資は足りません。課題もまだまだあります。本学社会連携教育センターなどを通じて、一緒に妊婦・産婦のみなさまがどう救護所を作っていくかをともに考えて頂けるとありがたいと思っています。

今年は、救護所の停電した状況で部屋の明るさを実験して、どれだけ照明器具が必要かを計測中。実は、日本女子大学の救護所となる教室・会議室は照明が不可欠なほど、暗いのです。お外で、室内で、学生が照度計でいろいろ実験中です。社会連携教育センターは一貫してこうした学生の研究活動に参加してくださり、指導してくださっていますので、教職協働＋学生協働＋官学連携型の卒論は現在も進行中です。学生が成果をまとめて、みなさまと意見交換できる日が来たら幸いです。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝次回の子育てサイエンス・カフェは！＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

第 20 回　子育てサイエンス・カフェ

参加無料　オンライン開催

その　子ども服　大丈夫？

－ 子どもの安全を守る衣服のかたち －

講 師　日本女子大学　家政学部被服学科　講師　武本　歩未

専門は被服構成学、被服体型学。快適で機能的な衣服設計のために、人体の寸法や三次元形状データを用いた体型研究、衣服パターンやサイズの検討を行っている。共著に『衣服の百科事典』『日本人成人の人体寸法データブック 2014-2016』がある。現在、全国規模で日本人女児の体格調査に取り組んでいる。

日 時

2024 年 9／21(土)
10:30～12:00

Zoom によるオンライン開催です。
ご自宅からお気軽にご参加ください。

申込み

QR コード または URL からお申込みください。
https://forms.office.com/r/cZsJx6FxT1

お申込み受付後、Zoom 詳細情報をメールにてお送りいたします。

▼お申込み

衣生活が充実し、デザイン性や経済性に優れた子ども服を簡単に手に入れることができるようになりました。その一方で、衣服のデザインを起因とする子どもの事故が報告されています。元気いっぱいで遊びざかりの幼児期に、思わぬことが原因となりヒヤリとした体験をされた方もいるかもしれません。このような事故を未然に防ぐため、子ども用衣料の付属品（ひも類）に関する基準は整備されたものの、衣服そのものの“かたち”に関する基準はありません。
今回は、子ども服の安全基準の現状を理解するとともに、安全な衣服のかたちとサイズについて考えたいと思います。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝板橋区立中央図書館との連携事業＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

板橋区立中央図書館連携事業
「親子読み聞かせ講座」を開催しました！

(家政学部児童学科 准教授 今田由香)

2024 年 8 月 1 日（木）、板橋区立中央図書館で「楽しく学ぼう！親子読み聞かせ講座」が開催され、3 年生 10 名と参加しました。本講座は、板橋区在住・在勤・在学中の 0 歳から 3 歳までの子どもたちとご家族を対象に、毎年、実施されています。今年は、前日の豪雨で急遽会場が変更となり、当日は猛暑という悪条件の中、11 組が参加してくださいました。昨年に引き続き、参加してくださったご家族もいました。

本講座は赤ちゃんも一緒に参加というスタイルで実施されています。そのため、赤ちゃんをお待たせしないように、最初に赤ちゃん絵本の特性について短く講義をしたのちは、平山和子作『くだもの』（福音館書店）を実際に楽しみながら、絵本とその読書について理解を深めていただきました。その後、昨年も赤ちゃんたちを魅了した絵本、イエラ・マリ作『あかいふうせん』（ほるぷ出版）をご紹介しました。

『あかいふうせん』には文字がありません。ページをめくるたびに変化する形を楽しみながら、読み合う人々が自由に言葉をつけていく、読み手の自由度が高い絵本です。大人のみなさんも学生たちも、赤ちゃんが瞳を輝かせ、熱心に絵本に視線を向け続ける姿に驚いていました。学生たちにとっても私にとっても、気づきの多い 1 日となりました。

大学公式ホームページではより詳しくご紹介しています。▸

板橋区立中央図書館連携事業「歌って遊ぼうわらべ歌！」

第 5 回「歌って遊ぼうわらべ歌！」は 10 月 13 日（日）開催。
毎回、ご参加の小学生に大好評！
お友達と歌を歌ったり、体を動かして楽しく遊びましょう！
ただいまお申込み受付中です！（先着 10 名）
下記板橋区のホームページからお申込みください。
https://www.city.itabashi.tokyo.jp/library/oshirase/2000836.html

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝お知らせ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

日本女子大学家政学部児童学科主催　第５回 JWU 幼児教育・保育セミナー

『子どものウェルビーイングと遊びの場づくり』

日 時　2024年11 月 9 日(土)
14:00～16:00

会 場　日本女子大学目白キャンパス
桜楓２号館　４階ホール

参加費
無料

講 師　和光大学 現代人間学部 人間科学科 教授 **大橋さつき氏**

概 要　先の見えない時代、さらにコロナ禍で顕在化した不安や生活様式の変化から、私たちは、あらためて、健康や幸福について考えるようになりました。そんな中で「ウェルビーイング」という言葉が注目を集め、未来を担う子どもたちの育ちにおいて大切な視点をもたらしています。
一方、本講演で取り上げる「ムーブメント教育」は、M.フロスティッグ博士が体系化した運動遊びによる発達支援法で、日本でも障がい児支援、保育、幼児教育、地域子育て支援等の様々な現場で活用されてきました。教育の中心にウェルビーイングを位置づけることが求められている今、ムーブメント教育の理論を共有しながら、半世紀も前からずっと、その中心的な目標が、「健康と幸福感(Health and a Sense of Well-being)の達成」であったことをお伝えします。そして、長年の実践から得た知見を紹介することで、みなさんと共に、子どものウェルビーイングを大切にできる未来への足掛かりを得たいと願っています。

※本講演は実技指導もございます。

申込み　左の QR コードからメールにてお申込みください。
うまく起動しない場合は、下記までメールをお送りください。
(一社)日本女子大学教育文化振興桜楓会　公益事業部門　学術支援担当
gakujutsu@atlas.jwu.ac.jp
メールの件名「11 月9日講演会申込み」、本文に①氏名、②所属(園・施設名、学校名等)、③参加人数、④メールアドレスを記載。

申込み締切:11 月4日(月)

日本女子大学人間社会学部心理学科・日本女子大学社会連携教育センター心理相談室　共催セミナー

『実践現場と日常生活に即した臨床の工夫』

日 時　2024年12月1日(日)
13:30～15:30

会 場　日本女子大学目白キャンパス
百二十年館 地下１階　12001 教室

参加費
無料

講 師　日本女子大学名誉教授　鵜養　美昭

概 要　現在、社会全体で実践家養成、特にスーパービジョンが重要視されるようになっています。鵜養名誉教授は 1994 年に日本女子大学心理相談室が発足してから以後 30 年に渡り、現役院生をはじめ、多領域で働く修了生のスーパービジョンを行ってきました。本学相談室は、学年 10 人の密な関係の小集団で院生の個性を見据えた個人指導という徹底した実践家養成を行っています。当日は、その過程で模索され、形成された実践的スーパービジョンについて、本学の歴史を踏まえながら、豊かな臨床歴・教育歴を生かした講演を行います。

申込み　QR コードまたは URL からお申込みください。
申込み締切:10 月 31 日(木)
定員 100 名

問合せ:日本女子大学心理相談室　shinrisoudan@fc.jwu.ac.jp

日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

心 理 相 談 室のご案内

日本女子大学心理相談室では、地域の皆様の心の相談をお受けしています。
たとえば…

子どもの発達や成長が気になる
不登校、集団になじめない
子育ての悩み
対人関係、親子関係
気持ちを整理したい
自分の性格、将来・生き方
自分を見つめたい など

相談は完全予約制です。お電話でお申込みください。

日本女子大学 心理相談室　03-5810-1507（直通）

受付：月曜～土曜 9時～17時

日本女子大学 心理相談室

ラボ協力会員 募集中！！

お子様と大学の研究に参加しませんか？

日本女子大学「JWU 子育てサイエンス・ラボ」では、子どもの発達（例：ことば、コミュニケーション、見る力の獲得）や子育てについて、種々の学術調査を行っています。
ラボ協力会員に登録して、お子様と一緒に、本学の研究に参加しませんか？

（調査ごとに、ご登録者の中から年齢等の調査条件に合う方にご連絡します。調査内容・所要時間・謝金の有無等を担当者が説明し、参加をご了承いただけた場合は、ご都合に合わせて調査スケジュールを調整します。）

「**ラボ協力会員**」詳細、ご登録方法はこちら▶
ラボ協力会員募集中→下スクロール→「登録はこちら」

ラボ会員

「JWU 子育てサイエンス・ラボ」を運営する社会連携教育センターの公式 SNS アカウントです。